

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 9 月 5 日現在

機関番号：32510

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24617016

研究課題名(和文)映像制作による異文化交流のためのウェブ・プログラムのデザイン

研究課題名(英文)To design the web educational program for intercultural exchange by video making

研究代表者

白 ソンス (Baeg, Seongsoo)

神田外語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：30337745

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：メディアはグローバル化し、インターネットは普及しているが、アジア地域における情報格差は依然と存在し、情報の信頼性や公平性などにおいても多くの課題を抱えている。そのなか、この研究では「異文化交流」と「メディア・リテラシー」のための国際教育プログラムがデザインされた。実際2012年～2016年に4回の直接参加型ワークショップと2回のオンライン・ワークショップがアジア諸国からのべ400人が参加し、実行された。

アジアの大学生たちの映像作品が彼らの自己認識と他者認識をどう現しているかについての研究と異文化ワークショップの効果と参加者に対する影響を計るための方法論の研究が行なわれた。

研究成果の概要(英文)：These days, media is globalized and the Internet is popularized, but information gap still remain in Asian area, and there are some problems about the impartiality and reliability of information. This study is to design the international educational program for intercultural exchange and media literacy. Actually participating-workshops were held 4 times and online- workshops were 2 times during 2012-2016 and the total number of participants was about 400. And a study on how videos of Asia students portray their self-consciousness and other-consciousness and a study of the method to measure the effectiveness of intercultural workshop and influence upon the participants were also carried out.

研究分野：異文化コミュニケーション、メディア文化、メディア教育、メディア文化、メディア教育

キーワード：異文化交流 異文化ワークショップ アジア メディア・リテラシー 映像制作

1. 研究開始当初の背景

アジアの地域が政治・経済的文脈で語られることが多いなか、各国の文化や生活に関して二つの相反する現象が指摘されるようになった。それは各々の多様な伝統文化や価値観の再発見と意味付与であり、もう一つはグローバルな文化や生活様式への指向と統合である。このような現象の背景には植民地の歴史や戦争以来の政治・経済的關係が最も大きな要因だろうが、より具体的な要因としてはメディアの存在が考えられる。

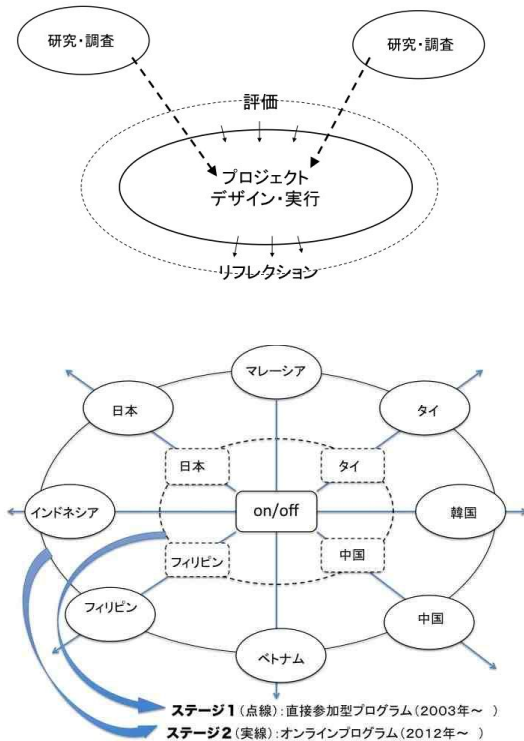
メディアのグローバル化、デジタル技術の発達とインターネットの普及は、「西洋」から「アジアの各々の国」に流れ込む文化や情報といった図式をより複雑なものに変え、この地域の社会文化的な面でも大きな変化をもたらした。情報の発信地は多元になり、同じ情報を共有する確率は高くなった。メディアの量的・質的变化はお互いをもっとよく理解する機会を増幅し、その可能性を高めたといえる。しかし実際はまだこの地域における情報格差は依然と存在し、情報の信頼性や公平性などにおいても多くの課題を抱えているといえる。

日本からすると近年、東アジアにおけるメディア文化や社会的状況に関する研究や学術的交流は盛んになっているなか、東南アジア諸国のメディア文化に関する理解やそれを介在した交流は相対的に少ない。そのため、この研究では東南アジアを含め、より広い範囲におけるアジア諸国との交流を活性化し、相互理解を深めていきたい。さらに現代社会におけるメディアの機能を考慮するとメディア文化を研究・交流の手がかりにすることは必然的なことだと思われる。

2. 研究の目的

- (1) 既存の「異文化交流」と「メディア・リテラシー」のための国際教育プログラムを修正しながら、拡大する。アジア学生たちの直接交流し、コミュニケーションするワークショップにする。
- (2) 上の(1)の問題点(時間・経費の問題と参加国の制限)を補完するため、オンライン・ワークショップをデザイン・実行する。より気軽に多くのメンバが参加できるプログラムを考案する。
- (3) アジア各国の大学生たちが作った映像作品を通して、彼らの自己認識とアジアの他国に対する他者認識を理解する
- (4) 異文化ワークショップの効果と参加者に対する影響を計るための方法論に対する研究を行なう。
- (5) アジアにおけるメディア教育と異文化交流のネットワークを作る。

アプローチ



3. 研究の方法

直接参加型 (Off-line) ワークショップとオンライン・ワークショップがそれぞれ行なわれた。

【直接参加型国際ワークショップ】

国内段階 (準備段階)

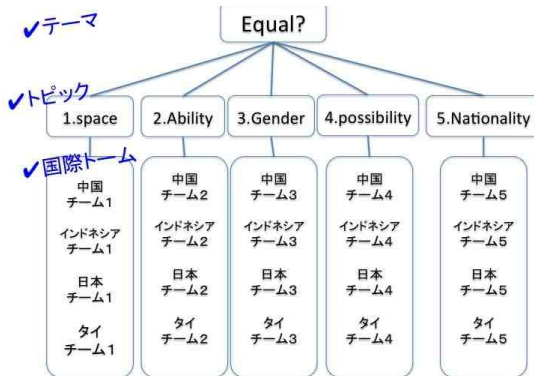
- ・ テーマを決める
- ・ テーマに対して5つのトピックを作る
- ・ 5つのトピックそれぞれで、各国でチームが作られる。
- ・ 各チームは自分たちのトピックについて5分の映像を制作する。

国際段階 (国際ワークショップ)

- ・ 各国のチームが自分の映像を持って参加する
- ・ 全部で25個の映像になる。
- ・ トピックごとに国際チームが作られる。
- ・ 各国際チームが自分たちの映像をつなげるための新しい映像を制作する。
- ・ 制作は企画から編集まで国内と同じ過程を行なう
- ・ 学生たちは制作過程を2回経験する (国内と国際)
- ・ 学生たちは自分たちの映像を他の国の作品と並べてみることによって、新たな意味つけができる。
- ・ テーマとトピックに関するディスカッションを行なうことによって、お互いの認識や社会的な状況を確認する。
- ・ 学生たちはメディアに対する知識や制作の

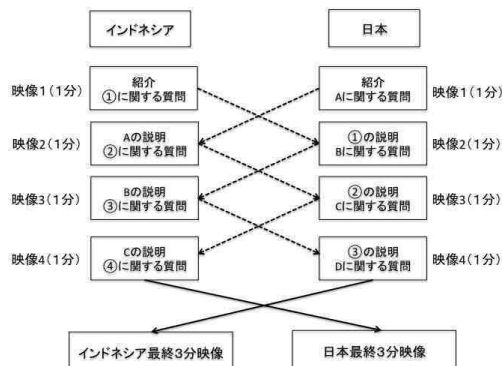
スキルを学び合うことができる。

【国際チームA / 25分映像】



【オンライン・ワークショップ】

- ・神田外語大学（日本）とUPN Veteran(インドネシア)の2カ国間ビデオ交換プロジェクト
- ・プロジェクト目的：パートナー国に対する知識と想像力を得る。映像制作の能力を高める。
- ・方法：各国の学生たちが1学期で5つの映像を制作する。各映像は1分ものになるが、それらの映像は二つの部分（質問と説明）を含んでいる。映像のなかで相手国のことを質問し、相手国の質問に対し説明をするやりとりを持続的に行なう。それによって相手国に対する好奇心を満たし、知識を得ることになる。学生たちは映像のやりとりだけでなく、他のメディア（メール、Facebook、SNS など）を利用し、コミュニケーションを行なう。お互いのそれぞれの映像は最終的に一つにまとめられ、このやりとりを振りかえ、整理する映像にする。



4. 研究成果

(1)d'CATCH 2013 in Thailand

主催先：チュラロンコン大学（タイ）

参加国：9 各国

タイ(チュラロンコン大学)、日本(神田外語大学)、中国(伝媒大学、南京校)、フィリピン(サントトマス大学)、インドネシア(UPNベテラン)、ベトナム、カンボジア、ミャンマー、ラオス

日程：2013年1月26日-2月2日

テーマ：Trans-culture

トピック：Color, Food, Transmission, Ceremony, Performance



(2)d'CATCH 2014

主催先：神田外語大学（日本）

参加国：4 各国

タイ(チュラロンコン大学)、日本(神田外語大学)、中国(伝媒大学、南京校)、インドネシア(UPNベテラン)

日程：2014年2月6日-2月12日

テーマ：Icon

トピック：Subculture, Fashion, Motif, Scenery, Love story



(3)d'CATCH2015

主催先：伝媒大学南京校（中国）

参加国：4 各国

日本(神田外語大学)、タイ(チュラロンコン大学)、中国(伝媒大学、南京校)、インドネシア(UPNベテラン)

日程：2015年1月31日-2月6日

テーマ：Equal?

トピック：Possibility, Ability, Space, Gender, Nationality



(4)d'CATCH 2016

主催先：サントトマス大学（フィリピン）

参加国：5 各国

日本（神田外語大学）、タイ（チュラロンコン大学）、中国（伝媒大学、南京校）、フィリピン（サントトマス大学）、インドネシア（UPN ベテラン ジョグジャカルタ）

日程：2016年1月30日-2月6日

テーマ：Hope

トピック：Hope of Asia, Goal, Cage, Village, Belief



(5)V-Pal Project 2013

参加国：日本（神田外語大学）とインドネシア（UPN Veteran Yogyakarta）

日程：2013年4月-7月

テーマ：日本とインドネシアについて知ろう！



(6)V-Pal Project 2014

参加国：日本（神田外語大学）とインドネシア（UPN Veteran Yogyakarta）

日程：2014年4月-7月

テーマ：日本とインドネシアは面白い！



5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会論文〕(計 件)

1. 『異文化ワークショップにおけるビジュアル・リフレクションの意義と方法論の考察～記録された写真による経験の再構成～』
神田外語大学紀要 (28) 213-232 2016年

2. 「To Design Project for Media Literacy and Intercultural Understanding: two cases of d' CATCH and V-Pal」
Pacific and Asian Communication Association (PACA), 2014

〔学会発表〕(計4件)

1. 「Design a Exchange Model in Asia」
Pacific and Asian Communication Association (PACA), Seoul, Korea, 2012

2. 「to design a Media Literacy Project for cross-cultural Understanding」
A Conference of Korean Association of South Asian Studies & Center for South Asian Studies of Kyoto University, Mokpo, Korea, 2013

3. 「To Design Project for Media Literacy and Intercultural Understanding: two cases of d' CATCH and V-Pal」
Pacific and Asian Communication Association (PACA), Bandung, Indonesia, 2014

4. 「A study on a reflection method for intercultural workshop: Re-construction of memory and intercultural interpretation by self-recorded photography」
International Communication Association, Fukuoka, Japan, 2016

〔その他〕

ホームページ等

1. d' CATCH Homepage
<https://dcatchdotcom2.wordpress.com>

2. V-Pal Homepage

<http://seongsoobaeg-blog.tumblr.com>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

ペクソンス (Baeg Seongsoo)

Kanda University of International
Studies, Japan

Associate Professor

研究者番号 : 30337745

(4)研究協力者

Nanatthun Wongbandue

Chulalongkorn University, Department of
mass communication, Thailand

Assistant Professor

(4)研究協力者

Metha Sereethanawong

Chulalongkorn University, Department of
mass communication, Thailand

Assistant Professor

(4)研究協力者

Martel, Faye Manalac

University of Santo Tomas, Communication
Department, The Philippines

(4)研究協力者

Wang Geng Xin

Communication University of China,
Nanjing, China

Associate Professor

(4)研究協力者

Muhamad Edy Susilo

UPN Veteran Yogyakarta, Indonesia

Lecturer